

2024 年 1 月 10 日

佐渡ジオパーク推進協議会

会長 渡辺 竜五 様

日本ジオパーク委員会

委員長 中田 節也



第 50 回日本ジオパーク委員会審査結果通知書

2023 年 12 月 14 日に行われた第 50 回日本ジオパーク委員会において、貴地域は条件付き再認定となりました。その審議の過程における貴地域に対する委員会からの意見をまとめて、ここに通知します。

【総評】

前回の再認定時に指摘した課題について、対応が進んだものと十分でなかったものがあつた。世界文化遺産候補、世界農業遺産とジオパークの 3 つのプログラムについては、連携が進んだ。地域住民のアイディアを反映した「プレミアムツアー」や「島の時代コース」の実施、そして佐渡金銀山の坑道内におけるガイドサービスの提供はその連携の成果であり、その背景にジオパークガイドの素晴らしい活躍がある。また、地質物品の販売の実態調査をきっかけに、赤玉石を守り、その価値を地域に伝える活動が生まれたことも高く評価される。

その一方で、看板やパンフレットの記載内容とサイトの整理・再設定については、大きな課題が残る。未だに地形地質に偏ったサイト設定が行われており、島内に存在する豊富な自然および文化遺産と地形地質とのつながりを総合的に捉えることの重要性が十分に認識されておらず、本ジオパークの構成要素として自然および文化遺産が十分に価値づけされていない。ジオパークの基本的な考え方を再確認し、早急に本ジオパークの地形地質以外の遺産の価値づけを行った上で、改めてサイトとコンテンツを整理し、情報発信の在り方を見直してほしい。

【優れている点】

- ・事業の必要性に応じて、柔軟な予算措置を実現している。
- ・ジオパーク活動に積極的に参画し、それをビジネスに活用するレストランやアウトドアショップが現れた。
- ・活発な教育活動を継続した結果、地域に愛着を持つ子どもたちが増えてきた。また、子どもたちが継続して地域を学習するための「SadoGeoClub」も設置され、地域を支える人材育成の体制の整備も着実に進んでいる。
- ・ジオパークガイドの活躍により、世界文化遺産候補、世界農業遺産と、ジオパークの 3 つの資源を連携させた事業が始まり、その成果が見え始めた。
- ・エリア内での地質物品の販売の軽減に大きく貢献した。

【今後の課題・改善すべき点】

I 緊急に着手ないし解決すべき課題（おおむね1年以内）

1. ジオパークのサイト整理・再設定を実施してきたが、佐渡島全域の地形地質以外の自然・文化遺産の価値づけが不十分で、自然・文化遺産のサイトの数も少ない。これまでのサイト整理・再設定作業についても、対応中ではあるが、迅速かつ効率的な方法を早急に検討すること。
2. ジオパークプログラム自体や理念を踏まえた上で、地質遺産と自然・文化遺産のつながりに関するストーリーやコンテンツを整理すること。
3. 情報発信については、石の話だけでなく人々の暮らしの話を前面に出すなどの工夫を通じて、マップや重要な施設の展示物、パンフレットなどの配付物、各種冊子や解説看板での地形地質学的情報の割合を減らし、ジオパークとしてバランスの取れた情報発信に取り組むこと。

II できるだけ早く解決すべき課題（2年以内）

4. ツーリスト等の周遊を意識した施設における可視性を改善するとともに、ジオパークに関連する可能性がある島内の施設間の連携を図ること。
5. 計画の作り込みに力が割かれている一方、事業がもたらした効果や課題の検証は十分とはいえない。事業を実施したことによって地域に与えた影響やその変化をモニタリングし、次の事業計画へフィードバックすることで、ブラッシュアップしていく仕組みを構築してほしい。また、事業を企画する際には、目的とビジョンを明確にしたうえで取り組むようにしてほしい。

III 中長期的に解決すべき事項

6. ジオパーク活動に積極的な民間企業や事業者と、無理のない形でのパートナーシップ協定の締結を検討してほしい。
7. 国定公園の海域設定を参考にしつつ、佐渡ジオパークのエリアを海域にも広げ、飛び地をなくした状態にすること。さらに、海洋資源を佐渡ジオパークの構成要素に含めることを検討してほしい。
8. 世界文化遺産候補や世界農業遺産の取り組みを個別に推進するのではなく、互いの取り組みの目的を共有したうえで、相乗効果を考慮した実質的な活動をさらに推進してほしい。

以上で指摘した点や現地調査で指摘された点を含め、今後どのように改善するか、人や予算の裏付けとスケジュールを明記したアクションプランの形で、半年以内に日本ジオパーク委員会に報告してください。それらの進捗については、2年後の再審査の際の審査対象とします。

以上